

真岡市庁舎



■五行川河川緑地からの景観



■テラスからみた市民プラザ



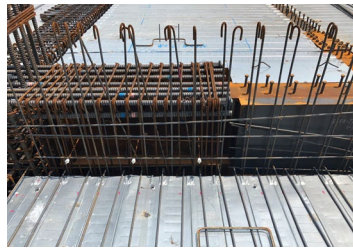
■テラスと一体的に活用できる開放的な市民プラザ



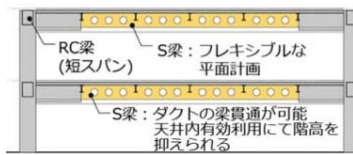
■南東側からの鳥瞰



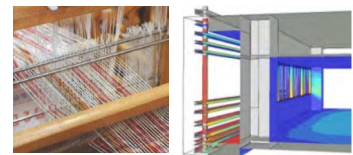
■複合構造梁（建て方時）



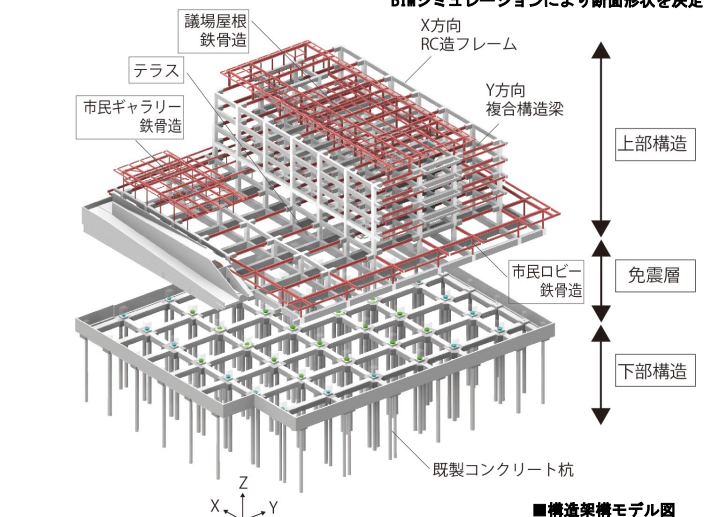
■複合構造梁（配筋時）



■複合構造梁概念図



■真岡木綿がモチーフのルーバー
BIMシミュレーションにより断面形状を決定



適材適所の混構造による免震庁舎の計画

本建物は基礎免震構造を採用し、すべての機能を免震層より上にする事で、災害時の事業継続性に最大限配慮した計画とした。架構は純ラーメン構造とし、フレキシブルな平面計画に寄与する計画とした。RC造を主体とし、一部S造、SRC造を、執務空間、議場、市民スペースといった様々な用途に対応するために、適材適所で使い分けている。執務空間は、ロングスパン部をRCとSの複合構造梁とし、免震建物に必要な水平剛性を確保しながら、軽量化を図り梁成をおさえ、経済性に配慮している。市民が積極的に利用できる1階の市民ロビーや2階の市民ギャラリーは、開放的な空間とするため、S造で計画している。市民ギャラリーは、テラスと一体的に利用する空間とするため、極力細い柱、薄い屋根で構成している。

免震層は、天然ゴム系積層ゴム支承、鉛プラグ入り積層ゴム支承、弾性すべり支承及びオイルダンパーで構成している。2階テラス下の外周部の低軸力部分に弾性すべり支承を配置することで、偏心の生じやすい基壇型の建物形状に対応し、免震層の偏心率を抑え、ねじれ振動に配慮している。



藤田啓史 株式会社松田平田設計 構造設計部門
担当者コメント

適材適所の混構造により、高い耐震安全性と事業継続性を備えた庁舎を実現することができた。多くの市民の方たちに利用されることにより、賑わいを創出し、市の新たなシンボルとなることを願っている。

建築主：真岡市
 規模：地上6階、延床面積 14,101㎡
 設計・監理：株式会社松田平田設計
 構造担当 藤田啓史 小林直樹 高村暁則 牛尾直史
 施工：鴻池・剋真・松本特定JV
 計画地：栃木県真岡市